

研究課題

自然環境を大切にする 心と実践力を育てる 環境教育と校長の在り方

I 趣 旨

科学技術の飛躍的な進歩と産業活動の活発化，世界人口の急激な増加は，地球規模の環境問題を引き起こし，人間の活動が自然に及ぼす様々な影響と環境保全の調和をいかに図るべきか，持続可能な循環型社会への移行をいかに目指していくべきかを解明していかなければならない。そのためには，環境に対する豊かな感受性や見識をもつづくりこそが環境問題解決の確実な方法であり，各学校段階における環境教育の推進が求められている。

学校教育において，子どもたちが環境問題に関心を持ち，積極的に関わろうとする意欲や態度を身に付けるためには，各領域や総合的な学習の時間などと有機的に関連を持たせ，幅広く継続的な実践に取り組むことが大切である。

校長は，生涯にわたる環境問題に向き合う意識と実践力を育成するために，リーダーシップを発揮し，ねらいを明確にした全体計画に基づき，教職員の共通理解に立ち家庭・地域・関係機関と連携した組織的な学習活動の体制を整える必要がある。

本分科会では，子どもたちが自然環境を大切にする心と環境保全のために主体的に関わる意志を持ち，実践する態度や能力を身に付けるための環境教育を学校全体で推進していく上で，校長が果たすべき役割と指導性について明らかにしていく。

II 研究発表及び協議

1 研究発表

「地域の自然・産業等，特色を生かした
環境教育の推進と校長の役割」
空知地区 美唄市立峰延小学校 吉田 政和

(1) 研究のねらい

環境教育のねらいを明確にし，教育課程に適切に位置付けるとともに，各学校での本教育活動と各教科等にも有機的に関連付け，自然環境を大切にする心と実践力をもった児童を育成する。

(2) 研究仮説



① 校長として美唄市における環境教育推進に関わる理解を深め，各学校において全体計画を整備・充実させることで，各教科等で関連付けた指導がされるだろう。

② 市の特色ある教育活動である「グリーンルネサンス」を環境教育の視点から見直すことで学校として環境教育の充実が図られるであろう。

(3) 研究の内容

①現状リサーチ

- ・環境教育についての推進状況とその内容について「学校経営」「教育活動」「家庭との関わり」「行政の関わり」の4観点25項目の設問について調査を行った。

②環境教育への理解と全体計画の作成・整備

- ・校長として環境教育への理解を深め，経営重点に位置付けるとともに，教職員へ働きかけ，環境に関わる自校の教育活動を見直し，全体計画の整備・充実を図った。

③地域の特色を取り入れ，地域との連携強化を図る環境教育の推進

- ・地域の自然に働きかけたり，地域人材の活用などを通して環境教育の実践に努めた。

④美唄市グリーンルネサンス事業を活用した環境教育の推進

- ・美唄市においては「様々な人や自然と関わる農業の実体験を通した心の育成」をねらいに環境や食に関する学習を進めてきた。

(4) 研究の概要

①現状リサーチ

- 市内ほぼ全ての学校で経営方針に位置付けがなされ環境教育に関わる教育課程も編成・整備されている。

- 環境教育に関わる実践においては，教職員の環境教育に対する研修を進めるとともに，全体計画の整備・充実が必要である。

- 家庭との連携においては，PTAが主体となった環境に関わる研修会の開催や家庭における取組の調査など，積極的な情報提供や学習の機会，啓発活動を進める必要がある。

②環境教育への理解と全体計画の作成・整備

○A校の実践

これまでの環境問題に関わる取組を見直し、次の2点の視点から全体計画を整備した。

- ・環境教育の視点から全教育活動を見直す。
- ・自校の環境教育のねらいを確認し、各教育活動を関連させ、ねらいに迫る。これらの見直しを行った結果、今まで、行事として行われていた活動が教科等との関連を図りながら環境教育の目的に迫るという活動に変化してきたり、児童会行事にエコ活動が加わったりするなど、教職員の意識の変化とねらいに即した活動が行われるようになってきた。

③地域の特色を取り入れ、地域との連携強化を図る環境教育の推進

○B校の実践

特別委員会を活用して、これまでの取組を見直しを図るとともに、校長自ら、資料を提供し環境教育に関する理解を深めさせたり、公務補の協力を得ながら、校地内の環境整備を図った。これらの取組を通して、全児童と教職員による春と秋の清掃活動の充実が図られるとともに、PTAによる清掃活動が実施された。

○C校の実践

C校の中学校区では、これまでもPTAが主体となって小中合同交流会を実施してきた。また小・中学校間でも相互の授業参観や小学校における算数T.Tの出前授業など連携の強化に努めてきた。今年度は、小・中学校の互いの年間計画・指導計画を交流することで、環境教育との関連を図り小・中学校合同の地域の清掃ボランティアを実現させた。

④美唄市グリーンルネサンス事業を活用した環境教育の推進

○D校の実践

D校では、地域の特産物であるハスカップの栽培を通して自然環境に働きかける学習を進めてきている。特に本校においてはスクールキャラクターである「ハスカッピー」を設定し「ハスカッピー農園」とすることで興味・関心を高めるとともに、地域方々から学ぶことで自然と生活の関連を理解し環境を守ることの大切さを学んできている。

○E校の実践

E校では地元の高校の協力を得ながら、ハスカップの栽培とその加工としてジャム作りを行っている。また、そのジャムを札幌市において販売体験をするなど活動を広げ、地域の農産物の恵みを実感するとともに、豊かな自然の大切さを実感させる取組を進めてきた。

(5) 成果と課題

① 成果

○校長会として共通のテーマの下、各校長が明確な経営ビジョンをもって環境教育の方針や重点を明らかにして全体計画を改善したことにより、教職員の経営参画が高まるとともに、保護者や地域の理解や協力がより得られるようになった。

○地域の人材を活用した農業体験活動は、子どもの環境に対する意識（豊かな恵みをもたらす自然環境を大切にする）が向上してきた。

② 課題

○環境教育の推進に当たっては、各教科や道德、特別活動、総合的な学習の時間等における環境に関連する学習内容相互の緊密な連携を図り、横断的・総合的な指導の充実を図ることが課題である。

○環境教育については、家庭・地域の理解と協力が必要である。家庭・地域への情報発信や啓発活動などを促進していくことが課題である。

2 研究協議

- (1) 環境教育は特別な取組ではなく、それぞれの地域、学校の実態に応じて身近な取組を通じて継続的に行うことが大切である。
- (2) 既存の教育活動を環境教育の視点で見直し、全体計画を作成していくことが大切である。
- (3) 自然環境を守ることと、それぞれの地域で生活していくことのバランスをどう教えていくかを考えていく必要がある。
- (4) 環境教育の取組により子どもたちがどう成長したかを見取ることが大切であり評価の方法を考えていく必要がある。

3 グループ協議

- A 環境教育を推進する上で、子どもの心をくすぐる素材を提示できるかが重要である。教師の学ぶモチベーションも鍵となる。それらの素材を生かし教育課程に適切に位置付けることが大切である。また、自然、人、地域、地球など環境教育を様々な視点から見て、最終的には豊かな心を育成することが大切である。
- B 教科、領域との関連を図った環境教育の推進については、教職員の環境教育に対する意識を高めること、全体計画を小・中学校9年間を見通して立案すること、授業を公開して検証を図ることが大切である。また、体験的活動を通し実践的態度の育成を図るには、五感を使うこと、次につながるしかけを作ること、問題解決の学習を進めることが大切である。
- C 環境教育の推進には、地域や学校の規模、特色など、それぞれの置かれている環境によって大きく変わってくる。特に自治体や行政の取組が自校の取組として位置付けることで、無理なく、継続して取り組めるものとなるのではないかと。
- D 自然環境を生かした各学校の実践を交流した、農業を視点とした取組、地域の自然や特色を生かし

組、小中連携を中心とした取組など、様々な視点から取り組むことが大切である。また、課題としては、環境教育のねらいをしっかりと踏まえ単なる体験にならないようにすること。小学校・中学校が連携して継続的に取組を進めること。子どもの変容をどう評価していくかということが挙げられた。

- E 各学校においては、栽培活動、ゴミ拾い、エコ活動など、様々な活動がされているが、環境教育という視点で整理することが大切である。また、教職員の理解や意識改革を図るには、校長が経営方針の重点として位置付けリーダーシップをもって実践することが大切である。
- F 大規模校、小規模校、都市部、農村部によらず環境に結び付いた学習や活動を行っているが、それを環境という意識の中でとらえ直すことで充実が図られる。そのためには、校長としてのしかながが必要であり、全体計画の整備・充実が大切である。また、自然環境を大切にすると実践力を育てるには、身近なところに目を向け、グローバルな見方を身に付けさせ、身近なところで実践させることが大切である。

Ⅲ ま と め

子どもたちが自然環境を大切にする心と環境保全のために主体的に関わる意志をもち、実践する態度や能力を身に付けるための環境教育を推進していく上で、校長が果たすべき役割と指導性について、美咲市の提言のもとに研究協議され次のような成果と課題が明らかになった。

1 成 果

(1) 研究の視点1に関わって

○各領域における学習内容相互の関連を図る横断的・総合的な全体計画の整備については、まずは、経営計画に「環境教育に関する全体計画」を策定し位置付けること、作成に当たっては、教務を中心とした教育課程編成委員会など、多くの職員が関わるということが重要であり、そのことが教職員全体の環境教育に関する意識の向上と教育活動全体を見直す契機になる。

○自治体等による環境問題への取組を学校で実施する場合、教職員へ、そのねらいを浸透させるとともに、役割を明確にし、進行管理と評価を明確にして取り組むことが重要であり校長の指導性の発揮が必要である。

(2) 研究の視点2に関わって

○子どもの幅広い体験の場を確保し深まり継続性を求める学習活動では、身の回りの環境問題を取り上げ生活との深いつながりを実感させることが重要である。そのため関係団体、専門家等の協力を

仰ぎ素材の発見や実践化に向けて連携を図ることが大切である。

○生活の中での実践力を高めるための家庭・地域との連携づくりの推進と校長の役割については、学校で学んだことが地域・家庭に広がるとともに、家族と共に学ぶ姿を求めたいところである。そのためには中・高校と学習が継続発展するような連携が大切である。また、校長として適切に情報発信していくことが重要である。

2 課 題

(1) 研究の視点1に関わって

○環境教育について経営方針に位置付け、その必要性・重要性を、教職員に意識化させていくため、環境教育の全体計画に整備・充実を図るとともに、校内委員会の設置など指導体制を整備すること。研修の充実を図り、教員の実践的指導力の向上を図ること。学校評価等を活用して指導の検証を図るとともに、保護者への意識啓発や学習機会の積極的な情報提供を図ること。

(2) 研究の視点2に関わって

○子どもが体験を通して実践的態度を高めるために、行政や専門機関等との連携を図ること。家庭・地域での学びの場の広がりや連携のための啓発を図ること。実生活の中で意欲をもって実践できる力を育てるための工夫し、校種間連携を図り、継続・発展させること。

「第11分科会に参加して」

様々な「環境」について考えさせられた分科会

美咲市立東小学校 秋 元 修 司

地域や家庭、異校種や関係機関との連携・接続等の重要性がクローズアップされる昨今、本研究大会の第11分科会「環境」に参加して、改めて「環境」、あるいは「環境教育」の重要性を再認識した。また同時に、多少なりとも「斜に構えた受け取り方」を敢えてするならば、「環境」とは果たして何であろうかという基本的な押さえと、校長としてそれをどう学校経営の中で具現化するかという点について意を新たにしたい。

「環境」という概念規定に際して、これまでは主として自然環境を念頭に置いてきた感が強いが、決してそれだけではなく、人的環境や歴史的・文化的環境、そして、現実的には施設・設備的環境と、実際の個々の学校や子どもを取り巻く環境を考えると、それは実に多岐に渡る。さらには、その目的として、環境「で」なのか、環境「を」なのか… このようなことを強く考えさせられる場であった。

これからの学校・教育は、正に「合校」「共育」であるべきで、併せて、子どもを主軸とした視点から逸らすことがないことが肝要であると痛感した。